

〈 セミナーのご案内 〉

● 配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回					
覧					

高等教育活性化シリーズ 411 (通算 743 回)

学士課程教育の質保証の深化 —

開催は延期となりました

学修者本位の教学マネジメント・システム：そのかたちと眺望

高等教育活性化シリーズ 405 (通算 737 回)

2019 年 12 月 24 日 (火)

公表の法令・努力義務化と社会評価の深化 —

大学発信情報のコンテンツと戦略的公開Ⅱ

学士課程教育の質保証の深化 —

学修者本位の教学マネジメント・システム：そのかたちと眺望

～ 大学で学修者本位というレボリューション・エボリューションが語られた地点にて ～

- ※ VUCA世界の文装と学び/V (変動性)、U (不確実性)、C (複雑性)、A (曖昧性)
- ※ 学修成果指標 GPA の特性とその働きの効能は/12 の論点へのビュッフェ・スタイルでの再確認
- ※ VUCAの済度に登場した、コンピテンシー評価系と学生の学修行動特性がもたらす光明!

● 講 師 ●

半田 智久 氏 / (国) お茶の水女子大学 教学 I R・教育開発・学修支援センター 教授

* 教学 I R・教育開発・学修支援センターのHP <http://www.cf.ocha.ac.jp/crdeSite/>

2020 年 3 月 30 日 (月) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)

公表の法令・努力義務化と社会評価の深化 —

大学発信情報のコンテンツと戦略的公開Ⅱ

～ 教育・研究/事業・経営/HP 進化/国内外発信ポータルサイト/I R 活用 ～

- ※ 教育情報公表の政策展開/説明責任の進化/米国大学情報公開の現状/教学マネジメント指針の審議と今後
- ※ 私学法改正による義務化/事業・経営情報開示の深化 (進化) /これからの事業報告書の役割と作成の要点
- ※ [大学ポートレート] コンテンツ ～ 国公立と私立/機能拡充・利便性向上への取組み/活用支援
- ※ [高等教育資格承認情報] 東京規約に基づく N I C の 2019 年 9 月設立/留学生・教員の流動支援
- ※ 情報公開こそ最大・最強の文装/We b サイトの編集力とインパクト/大学情報と法人情報

● 講 師 陣 ●

- 小林 雅之 氏 / 桜美林大学 総合研究機構 教授
文科省 中央教育審議会 大学分科会 臨時委員 教学マネジメント特別委員会 副座長
大学ポートレートステークホルダー・ボード 主査
- 西野 芳夫 氏 / 関東学院大学 名誉教授 私学経営のあり方研究会 主宰
- 三田 洋介 氏 / (独) 大学改革支援・学位授与機構 評価事業部 評価企画課長
大学ポートレートセンター 事務室長
- 野田 文香 氏 / (独) 大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 准教授
- 青野 友太郎 氏 / 高等教育計画経営研究所 常任同人 研究主幹 K K J 代表

2019 年 12 月 24 日 (火) 開催

〈 “メディア参加” で受付 〉



地域科学研究会 高等教育情報センター

[参加要領]

日時： ■高等教育活性化シリーズ 411 学修者本位の教学マネジメント・システム：そのかたちと眺望
2020年3月30日(月) 13:10~16:30

会場：日本教育会館 会議室(東京・神保町)千代田区一ツ橋 2-6-2 TEL03-3230-2833
(東京メトロ半蔵門線・都営新宿線「神保町駅」、A1出口より徒歩3分)

日時： ■高等教育活性化シリーズ 405 大学発信情報のコンテンツと戦略的公開Ⅱ
2019年12月24日(火) 10:00~16:00

※開催後のため、「メディア参加」のみの受付です。

参加費(税・送料込)	ご一名(資料代を含む)	メディア参加(資料及び音声CD)
高等教育活性化シリーズ 411 学修者本位の教学マネジメント・システム:そのかたちと眺望	35,000 円 高等教育同人 17,000 円	メディア参加はありません
高等教育活性化シリーズ 405 大学発信情報のコンテンツと戦略的公開Ⅱ		45,000 円 高等教育同人 25,000 円

☆ 高等教育計画経営研究所同人については KKJ の HP でご確認願います。

※ メディア参加とは会場に来られない方の参加形式で、開催後に当日配布資料及び音声CDを送付します。

※ なお、当日参加とともに、音声CDをご希望の方には、特別割引いたしますのでお問い合わせ願います。

※ 参加費の払い戻しは致しません。申込者の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

※ 受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付となりますので、必ずご確認ください。

支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱UFJ銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 郵便振替 00110-8-81660

口座名 「(株)地域科学研究会」 (ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は ⇒ <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/>

*メールでのお申し込みも可能です。 E-mail: kkj@chiikikagaku-k.co.jp

☆ ご案内をパンフからメールにシフトしております。メールアドレスをご登録くださいませ。

お申込み・お問合せ



地域科学研究会
高等教育情報センター

東京都千代田区平河町 2-3-10 ライオンズ平河町 101
TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993 〒102-0093

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

年 月 日

(□に✓印を入れてください)

高等教育活性化シリーズ 411
学修者本位の教学マネジメント・システム:そのかたちと眺望
 高等教育活性化シリーズ 405
大学発信情報のコンテンツと戦略的公開Ⅱ

一般 同人
 当日参加 メディア参加
 一般 同人
 メディア参加

支払方法 当日払い 銀行振込 郵便振替
必要書類 請求書 見積書 領収書

勤務先 _____ (請求書等に記載の宛名: _____)
〒 _____

所在地 _____ 連絡部課・担当者名 _____

TEL _____ FAX _____ メールアドレス _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
13:10 ｝ 14:10	<p>□ 1. 学修者本位の学びの条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ～ VUCA と大学／active learning と諦念 ～ 基幹教学マネジメントによる内部質保証の担保 ～ その統合性とインテリジェンス <p>(1) 学修者目線や学生の主体性：誰がどういうつもりで語っているのか 当の大学はどう思うのか。</p> <p>(2) それをお聴きしたうえで、内部質保証に適用 基幹教学マネジメント系の姿を捉える。</p> <p>(3) 「教」目線の学修成果評価と「学」目線の授業評価の コミュニケーション循環が導くこと</p> <p>(4) ものづくりの品質改善サイクルの話しを、 ひとづくりの場にもちこむ見について</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
14:20 ｝ 15:20	<p>□ 2. 学修成果指標GPAについて オーダー・ビュッフェ・スタイルで再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ～ 定着した GPA についてこのところ再考と機能化の動きが見られる あらためてこの指標の特性とその働きの効能を参加者のオーダーに もとづいて再確認していく <p>(1) GPA は 20 年という歳月をかけて やっと日本の 9 割方の大学で運用されるようになった</p> <p>(2) 単なる、しかしかにすぎないが、 要になることだけに、もたついたのかもしれない。</p> <p>(3) ここではこの指標にまつわる 12 ほどのトピックスを用意した</p> <p>(4) かぎりある時間のなかでのことゆえ、 ご希望の論点をピックアップし、論じあっていきたい</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
15:30 ｝ 16:30	<p>□ 3. 大学で学生一人ひとりを知ること — 学修者本位の学びの確立へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ～ 誰も全学生のことを知る由もない、ただ一者をのぞいて ～ 学生の学修行動とコンピテンシー評価系が紡ぎだす学修特性と成果 ～ たとえば、インダクティブ・ルーブリックとフリースケールメソッドを 用いたコンピテンシー評価と学修行動の比較調査がもたらす光明 <p>(1) 「学修者本位の」を語るとき、 その相手の多様性にたじろぐことなく対峙できる大学はあるか</p> <p>(2) 臆面もなくうなずくには、その備えがあつてのこと、 それは一人ひとりを把握する一者のこと</p> <p>(3) すなわち神か、その化身か。 VUCA の済度に登場したこの系が繰り出す新手法をご覧あれ</p> <p>(4) 一人ひとりを知って各自をそれなりに目覚めさせてゆく。 その仕掛けが「ある」か「ない」か</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>

時間	講義項目
<p>10:00</p> <p>11:30</p>	<p>□ 教育情報の公表と説明責任の進化 ～ 中央教育審議会の政策をめぐって ～</p> <p style="text-align: right;">桜美林大学 小林 雅之</p> <p>1. 教育情報公表政策の展開 (1) なぜ大学情報の公開が必要か (2) 高等教育政策の転換 ー市場化政策と事後チェックへ (3) 中教審のこれまでの審議 (4) 大学評価・情報の公表と大学ポートレートの現状</p> <p>2. アメリカにおける大学情報公開の現状 (1) アメリカにおける大学情報の公開 ～ カレッジスコアカード CDS (2) 全国学生調査 ～ NSSE, CIRP (3) データコンソーシアム</p> <p>3. 現在の政策動向と今後の展望 (1) グランドデザイン答申の核心 ～ 学修者主体の大学教育への転換 (2) 教学マネジメント特別委員会の審議 (3) 全国学生調査について (4) IR の重要性 (5) 今後の展望</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
<p>11:40</p> <p>13:00</p>	<p>□ 事業・経営情報の公表の要点と説明責任の深化(あるいは進化) ～ これからの情報開示、私立学校法改正を読み解く ～</p> <p style="text-align: right;">関東学院大学 西野 芳夫</p> <p>1. 一連の私立学校法改正の意義は何か ～ ガバナンス改革等の目的を考える (1) 平成16年私立学校法改正の趣旨 (2) 令和元年私立学校法改正の趣旨 (3) ガバナンスの強化、中期的な計画の策定、情報公開の充実の目的 ～私立学校法24条の新設、学校法人の管理運営から経営へ</p> <p>2. 情報開示の深化(あるいは進化) ～ 説明責任から、コミュニケーション、さらに支持者層の構築へ (1) 説明責任の3つの根拠 ～ これまでの説明責任 (2) 説明責任の深化あるいは進化 ～ これからの説明責任</p> <p>3. 事業・経営情報公表の要点 ～ 事業報告書の役割の変化 (1) 事業・経営情報とは何か (2) 事業報告書の役割の変化 (3) 事業報告書作成の要点 ～ 事業報告書作成のための基本方針策定の重要性</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
<p>14:00</p> <p>14:20</p>	<p>□ 大学ポートレートのコンテンツと活用</p> <p style="text-align: right;">(独) 大学改革支援・学位授与機構 三田 洋介</p> <p>1. 大学ポートレートの概況 (1) 目的と役割 (2) 運営体制 ～ 運営会議とステークホルダー・ボード</p> <p>2. 情報提供の機能拡充・改修の取組み (1) 公表項目・検索項目の追加 (2) 国際発信 (3) 利便性の向上 ～ 一覧機能・モバイル拡充・デザインの改善</p> <p>3. 情報活用 (1) 認証評価における活用 (2) 大学間での活用 (3) 情報活用への支援</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
<p>14:30</p> <p>15:20</p>	<p>□ 高等教育資格承認情報のコンテンツと国際交流の進化 ～ “東京規約”の発効/国内情報センター(NIC)の設立～</p> <p style="text-align: right;">(独) 大学改革支援・学位授与機構 野田 文香</p> <p>1. 国内情報センター(NIC)設立の背景 (1) グローバル化と国際流動性の高まり (2) 国際的勧告: ユネスコ地域規約 (3) 日本の大学が期待する第三者情報サービス (4) 外国NICが日本に求める情報</p> <p>2. 日本におけるNICの設立(2019) (1) 高等教育資格承認情報センター (2) NICネットワーク</p> <p>3. Qualificationsの質保証をどうするか: これからの課題 (1) Qualificationsをめぐると議論 (2) Qualificationsに関わる共通枠組み</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
<p>15:30</p> <p>16:00</p>	<p>□ 戦略的情報公開の学内インパクトと社会評価 ～ Webサイトのトップページとリンク構成の工夫～</p> <p style="text-align: right;">高等教育計画経営研究所 青野 友太郎</p> <p>1. Webサイトの検証と深化 ～メディアとしての不易と流行</p> <p>2. Webサイトの編集長の役割と使命 ～「教育・研究」と「事業・経営」情報の見せ方</p> <p>3. 情報公開こそ最大・最強の文装 ～ 教職員・理事・学生、高校生、保護者、社会へのインパクト</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>